

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>事業所独自の理念が作成されており、地域密着型サービスの役割りを職員一同理解している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者は日頃から、職員へ理念の周知に努めている。職員は、日々のサービス提供場面に、反映させるよう努めている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>1, 事業所内に利用者やご家族が見やすいように理念を掲示している。 2, 理念はパンフレットに明示している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>1, 大きな行事が年2回あり、推進会議に関わる方々、町内会長、老人クラブ会長、第3者委員等の方々を招待して交流を持っている。 2, ヘルパーの実習生やボランティア等受け入れている。ボラや慰問は多彩である。 ※毎年町内主催のゲートボール大会に参加して来たが今年は参加していない。</p>	<p>新しい年には、また町内のゲートボールや催し物に参加していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価(内部評価)は各棟で数回、会議を行い、内容の検討を行っている。 外部評価の意義を理解している。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①会議のメンバーには、会の意義や役割を理解してもらい、参加を促している。 ②メンバーの意見をもらい、取り組みにつなげるように考慮している。	推進会議には、各棟から利用者の方や職員も1人ずつ参加している。今後も継続していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	①ホームの実態を理解してもらうために、推進会議で結果を提出し、報告している。 ②推進会議では、市町村担当者の出席も数回あり、運営や現場の実情等を伝えている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に職員は参加し、内部研修にて発表している。皆で学ぶようにしている。今の所当ホームでは活用はないが、必要な人に活用できる体制を整えている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日々のケアの中の提供場面で虐待を未然に防ぐよう努めている。 外部への研修に参加したり、それを内部研修で行い、職員みんなで学ぶようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事は、事業所の理念やケア方針等説明している。相手の疑問や意見を引き出すよう配慮している。改訂する時にも説明を行い、同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず利用者のご家族の出席があり、意見や不満等、お聞きするように心を配っている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	1, 利用者の出納帳に記録しコピーし、1か月分の領収証と共に送付する。 2, あまり面会が多くない家族には、ご様子シートを作成し、送付している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議（2ヶ月に一度）時、家族の参加も必ず実施している。意見を伺い、アンケートを年1回実施したりしている。面会時には、いつでもお話を伺うようにしている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の他に、各棟のリーダーとの管理者との会議も設けている。その他、会議でなくても管理者は、職員の意見を聞くことはしている。運営に反映するようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の入院や退院等状況の変化にあれば、職員配置を変化させて対応している。職員にも急な休みが正じれば、シフトの調整や、他棟の職員協力体制で対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員の異動や配置換えを行う際には、利用者に十分に説明している。 新しく担当する職員に詳細に引継ぎを行っている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じた研修を受講している。受講後は、内容を報告会を開き、他職員に発表・伝達している。 外部研修の計画を作っている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は計画はするものの、実施が困難であった。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	『親睦会』職員の運営にてあり、年2・3回食事会等催し、皆で楽しんでいる。 職員からの意見を受けて、環境づくりを考えている。休憩時間や場所は確保あり。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、現場の状況や勤務状況の把握をしている。②健康診断、夜勤者は半年に一度、夜勤をしない人は年に1回実施あり。 ③労働基準に従った勤務時間を守っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用を前提とせず、相談を受ける時、利用希望者や家族からまずは身体状況や、希望、ニーズ等を把握するよう努めている。また、信頼関係を築く事を、意識しながら対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	こちらでは、居宅からの紹介がほとんどである。施設はこのグループホーム1つだけなので、他のサービス利用は、対応できない旨、担当ケアマネも理解して下さい。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のご家族（居宅）との話し合いを行い、双方の意向にそったサービス開始となるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、得意の分野で協力していただいている。日々の経過観察の中で、利用者同士の交流もはかりつつ、職員達も加わり、より良い関係を築いている。	レク活動にもっと力を入れて、9名の利用者の方々が、日々楽しい時間が短くとも得られるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に様子をはなしたり、要望等もいつでもお話を聞いている。ご家族側も通院や外出(外泊)などかかわる部分も持って下さる方々も多く、協力が得られている状況にある。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者と家族のこれまでの関係や双方への思いを把握している。面会の時には、様子を伝えたり、電話や月1回の送付物の中にご様子シートを入れて伝えたりしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との電話・手紙のやり取りは要望あれば家族の了解を得て、行っています。 (なじみの場所へ行く事の支援はしていません。ご家族の対応におまかせしています。)		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良し悪し等の人間関係を把握している。利用者の孤立はない。利用者の個性や特性を活かした、席順や関わる機会を考慮して、人間関係ににつながる働きかけをしている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、しばらくは必要に応じて相談やかかわりを行っている。(入院中であれば状態を面会に行ったりしている。)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いや希望、意向を把握するよう努めている。認知症もみられ、本人からの気持ちを把握できない場合は、職員がご本人の視点に立って把握するよう努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまで、入所後もご家族から今までの暮らし等くり返しお話を聞いている。これまでのサービス利用等把握している。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員で、利用者の1日の暮らし方やリズムを把握している。体調の変化や利用者同士のかかわり等、情報を共有し、把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回はケアカンファレンスを実施し、職員みんなで問題点や状態の把握に努めている。又、家族の面会時に希望や要望と計画書を説明し了解を得ながらすすめている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は短期は3ヶ月、長期は6ヶ月である。状態の大きな変化があれば、期間中に見直しをしている。チームの意見やご家族の要望があれば、話し合い現状に即した計画に作り直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察経過記録の他に、棟内での情報交換のために、ノートを準備し、情報の共有に努めている。気づきや実践などを記入している。月1回のケアカンファレンスにて、検討したり計画の見直しに役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームであり、介護保険サービスと自主サービスを合わせて、利用者への生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	慰問やボランティアは、器楽演奏・手芸・歌謡指導等、様々あり、利用者の皆さんの楽しみとなっている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同グループの居宅支援のケアマネジャーとの連携がとれていて、訪問調査を受けたり、他居宅とは退所時かかわっている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所必要な方はいない。(権利擁護) 必要に応じて、同地域から入所商談や事故報告をしたり推進会議に出席していただいたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支援している。通院方法や結果の伝達には納得を得ている。受診結果は利用者や家族との共有がはかられている。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症がすすんでいて、専門の先生による診断や治療が必要と思われる場合はご家族の了解を得て通院となる。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	この12月から、医療連携加算の導入により、週1回は各棟に2時間居て下さり、利用者の健康管理、いろいろな相談ができています。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、利用機関に様子を伺い、状況を見守ります。施設では1ヶ月をめどに退所となるため、情報の把握に努めます。ご家族の希望になるべくそうようにしています。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、常駐の看護職はいないため、家族と主治医と連携をとり、くり返し話し合っている。今までに終末期を施設でと希望された方はない。(この12月から医療連携制度をとり入れて、週に数回看護師の訪問がある)		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化の指針に沿って対応している。しかし終末期に向けた取り組みは、していない。(前項通り、常時の看護職は不在にて終末期は医療行為等難しい面も多いため。)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者が別な場所へ移り住む事による、ダメージを理解している。身体面や認知症がすすみ老人ホームへ移るあるいは、体調の変化にて入院されることもある。相手側への情報提供や家族とも話し合いにて行っている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>介護時や声がけ時は、羞恥心に配慮している。利用者の言動を否定しない。利用者のプライバシーに配慮して行っている職員は個人情報保護法について理解している。</p>	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者との日々の関わりや家族等からの情報により、利用者の希望や関心、し好を把握している。利用者の力量に応じて、ご自信で決定していただくよう場合を多く持つよう努めている。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の言動を急がしていない。 ・業務を優先して利用者の訴えを後回しにしていない。利用者の体調や精神状況に合わせた支援を行っている。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>施設には、有料での理・美容の方月1回来て下さるので、利用する利用者の方がほとんどである。ご本人の望む所へは施設での対応はしていない。(ご家族の対応にまかせている。)</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の苦手なものは、代替を準備している。利用者と後片づけは、一緒に行っている。職員も同じテーブルで一緒に食事をとっている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこについては要望あればあずかり、対応する。現在は9名全員は要望なし。おやつ・コーヒー等好みを把握して対応している。甘い菓子が大好きな方がおり個人購入を職員が対応し提供する。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄は、おむつ使用の方の把握はできている。記録は排便のみ。おむつ使用者でもトイレ促し、誘導にて清潔とトイレ排泄を行っている。		トイレ誘導をもっとこまめに行う事で尿とり等汚染せずに済むのもっと力を入れて対応したいと思っている。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は基本的に決めていて1週3回行っている。体調・外出(通院)等あれば移動して対応する。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、臥床等は自由です。テレビを個人持ちの方もいて、居室でゆっくりできます。(夜間も)寝れないと訴えの方には、家族や医師に相談し眠剤の服用もあります。寝つけない方には、温かい飲物を提供したりお話ししたりします。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量等を把握している。能力に応じて家事支援(食器拭きや、菊や豆はじき)に参加していただいたり洗濯たたみも行って下さる。自由にテレビや新聞・歌を楽しんだりされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から通院のためその他、預かり金を受け事務室で管理します。支払いは付き添った職員が行います。(所持はしていただきません。トラブル等を避けるため。)		個別に買物に行く機会には、支払いをしていただき、使うことの支援を考えたいと思います。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望の方には個別に施設から出て道路までご本人の状態に合わせて外出します。その他は、希望する方々を集団にて、施設の周りで外気浴や軽い散歩にて対応している。又、落ちつかない方とはドライブして気分転換をはかったりします。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人の要望は、家族面会時等にお伝えして、対応はご家族におまかせしています。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望あれば支援している。手紙についても家族の了解を得てご本人の要望に対応している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間の規定はなくいつでも面会が可能です。応接室や居室(小さな)和室等提供できますので、ゆっくりお話できると思います。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者と全職員は、身体拘束の内容や弊害について理解している。拘束は行わない姿勢で日々のケアを提供している。(自棟では今の所そのような対象者なし。)		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>日々、不穏な方には個別に付き添ってのケアを現在も行っているので継続していく。</p>
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等のリスクが起こり得ることは入居時等に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病・アレルギーを把握している。利用者の体調の変化には気をつけていて、すぐ対応や情報伝達をしている。受診必要時は家族に相談して行っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケースには、様々な記録・情報がありいつでも読めるようになっている。利用者の薬の内容も把握できている。飲み忘れや誤薬がないように支援体制をとっている。薬の変更はすぐ全員に周知している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を充分心がけている。自然排便を促すようにしながら、排便なければ下剤の服用をしている。排便の確認をしながら、行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人に声がけしたり、食堂の洗面所にて食後は全員にうがいを促している。就寝時には、義歯洗浄や歯みがきを促している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算もあり、バランスの配慮がある。水分の摂取量、食事量の記録をとっている。日々生かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ(季節)は、全利用者の予防接種を受けていただいている。感染症への対策のマニュアルは		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理師が食材の調達・買物をしている。食材の期限、在庫管理を行っている。食座を無駄にせず、新鮮な食材を使用するような工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご家族やその他訪問者が事業所に入りやすい雰囲気を作っている。かわいらしい置き物や植物を飾っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・テレビや音楽等の音量は適切である。 ・日差しや照明等、室内の明るさは適当である。 ・季節を感じるができるように、壁の装飾を変えている。廊下には行事やドライブの写真を貼っている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームは兼食堂で回りにはソファがある。広さも広々としていて、利用者同士でソファに移り仲間で話したりできます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には、愛用していたものやなじみの物を持っ てきている。タンスや家族の写真等自由に置け る。他に活動で作った物など飾ったり居心地よく 過ごせるようにしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	事業所内に温・湿度計を設置し、管理をしてい る。館内は、じゅうたんと床暖、居室にも暖房パ ネルと冷(暖)房用クーラーもあり、快適な環境で ある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下は両側に手すりが付いている。利用者の身体 状況に合わせて車イスや歩行器を準備している。 自棟では、歩行器の使用の方一名おります。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	扉の側に、造花の目印を付けたり、工夫してまち がいを防いでいる。(ご自信で作った工作の物等 も)		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	敷地には、庭や農園がある。農園の運営・管理は 職員が行っている。作物の収穫時は利用者が加わ り楽しまれている。		今後も農園は継続していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)